



やめよう体罰、やめよう暴言（1）



「遊び終わったらしまっておくのよ」と言っておいたのに、おもちゃを出したままにしていた。「食べないように」と言っていたのに、黙って食べていた。このような時に、あなたは子どもに対してどのように指導しますか。つい感情的になって叩いたり、暴言を言ったりしてはいませんか。自分の子どもなのでつい感情的になり、なかなか落ち着いた対応をすることはできないこともあるのではないのでしょうか。しかし、体罰や暴言で子どもが健やかに育つことは難しいのです。

内閣府が発行している「愛の鞭をやめて、子どもを健やかに育みましょう」から、正しい子どもの育み方について考えてみましょう。

ポイント1 子育てに体罰や暴言を使わない

一見、体罰や暴言には効果があるように見えますが、叩くことによって得られた子どもの姿は、叩かれた恐怖によって行動した姿。自分で考え行動した姿ではありません。「愛の鞭である」と親が思っても子どもにとって大人から叩かれることはとても怖いことです。ちょっと叩かれただけ、怒鳴られただけでも、心に大きなダメージを受けることもあります。子どもだからといって暴力や暴言が許されるわけではありません。それに体罰や暴言は「虐待」へとエスカレートする可能性もあります。「叩かない、怒鳴らない」と心に決めましょう。

ポイント2 子どもが親に恐怖を持つとSOSを伝えられない

親に恐怖を持った子どもはどのような行動を起こすでしょうか。親に気に入られるように、親の顔色を見て行動するようになります。また、恐怖を持つ親に対しては、子どもが心配事を打ち明けられなくなります。心配事を相談できないと、いじめや非行など、より大きな問題に発展してしまう可能性もあります。

ポイント3 爆発寸前のイライラをクールダウン

子どもが言うことを聞いてくれないときに、イライラすることは誰でもあること。でも、疲れていたりして、もともと抱えているストレス度が大きいと、子どものちょっとした行動（おもちゃの取り合い、すぐに動かないなど）をきっかけに、イライラが爆発してしまふことがあります。イライラが爆発する前に、クールダウンするための、自分なりの方法を見つけておきましょう。

ポイント4 親自身がSOSを出そう

育児の負担を一人で抱え込まずに、家族に分担してもらったり、自治体やNPO、企業などのさまざまな支援サービス（ファミリーサポート、家事代行サービス、一時預かりなど）の利用も検討しましょう。子育ての苦勞について気軽に相談できる友達もできるといいですね。

※この「愛の鞭をやめて、子どもを健やかに育みましょう」は内閣府のホームページで読むことができます。

いかがでしょうか？次号も同じテーマで考えます。